

決算資料やニュースとともに会計理論を学ぶ

教授 名 越 洋 子

1. 研究内容

公認会計士試験・税理士試験の受験者や経理財務の仕事を希望する学生が多く所属しています。入室の際には、ある程度簿記会計の知識があることが望ましく、会計基準の文章を読める程度の読解力がほしいです。演習では、試験日程も考慮しつつすすめていきますが、経済ニュースやビジネスを理解するための会計知識やセンスを養うことにも力をいれます。できれば、文献やニュース記事を読みながら、報告・討論を行い、新しい会計基準やビジネスの動向を学ぶこととなります。リアリティのある会計の理解を深めていきましょう。

テーマとしては、資金調達的手法、無形固定資産、研究開発とソフトウェア、連結グループの会計、企業買収、金融商品（デリバティブ）、排出量取引（環境関連）などを考えています。

2. ゼミの進め方

《2年次》

専門の基礎科目である基本科目や会計特殊講義の履修に慣れることから始めます。演習では、実際の企業の財務諸表を見て特徴をつかみます（日本基準、米国基準、国際財務報告基準）。並行して、比較的平易な文献を読み、企業の事例やニュースに親しみながら、理論的な考え方を身につけることが中心となりますが、文献はゼミ員と話し合っ決めていきます。例年は、平易な文章ながら、難解な金融商品の会計について書かれた文献について、章ごとに、担当者を決めて、資料を作成し発表してもらいますが、資格試験の日程によってはその形式にこだわりません。また、英語で書かれた日本企業の決算書（米国会計基準・IFRS）を素材にして、英文会計の解説も行っています。なお、ゼミ合宿は行いません。

《3年次》

2年次と同様にすすめていきますが、資格試験の日程によって決めていきます。例年、公認会計士試験の短答式のほか論文式を受験するゼミ生も多く、税理士試験や日商簿記試験の日程も考慮して決めていきます。文献について、担当者を決めて発表してもらう形式です。2年次と同様に、ゼミ合宿は行いません。この年の休み中には、インターンシップへの参加を奨励しています。また、4年生から就職活動体験談を聞く会を開催しています。

《4年次》

卒業論文の執筆が中心です。2年次および3年次と同様に、ゼミ合宿は行いません。

3. 教材

教材はいくつかの候補の中からゼミ生が話し合いながら決めます。ここ数年、2年次は、上野清貴『財務会計の基礎』（中央経済社）でした。3年次では、例年、伊藤邦雄『新・現代会計入門』（日本経済新聞社）を読んでいます。4年次は、卒論報告が中心であるため、教材を使用しません。担当教員の専門については、名越洋子『負債と資本の会計学－新株予約権・複合金融商品・ストック・オプションの検討』（中央経済社）を参照して下さい。

4. 成績評価の方法

2年次と3年次は、ゼミでの発表あるいはレポート提出と参加姿勢で評価します。発表は分担制で、全員が担当します。4年次は卒論の提出をもって単位取得の条件とします。

5. ゼミ入室試験（選考方法）

選考方法につきましては、Oh-o!Meijiにて、後日連絡します。

6. その他・志願者へのメッセージなど

発表に慣れておくと、3年次の後半から始まる就職活動にも役立ちます。時事問題と現実のビジネス（特にファイナンス）に関心のある人を歓迎します。4年次の単位取得は、卒論の執筆が条件となります。

公認会計士試験などの資格試験の合格を目指す学生は、ぜひ経理研究所に所属してください。今まで当演習室に在籍した会計士試験合格者のほとんどは経理研究所にも所属し、輪読する文献をきちんと読み報告も行いました。また、担当教員が講義する会計情報論A・Bは必ず履修してください。ゼミと両輪です。在学中に合格した先輩もいましたので、是非先輩の後を追って下さい。

なお、日本語によるコミュニケーションが可能な、会計専攻の交換留学生が参加することがあります。